

# 家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会資料

資料5



平成28年8月29日 (月)

## 釧路市家庭教育 支援チームのとりくみ

行政や地域で家庭教育支援を推進していくための  
方策に関連して



世界三大夕日のまち

北海道釧路市教育委員会





## 釧路市の概要



- 平成17年に旧釧路市、阿寒町、音別町が合併
- 人口 **175,100**人 世帯数 **94,909**世帯 (平成28年7月末現在)
- 阿寒と釧路湿原の2つの国立公園を擁する自然豊かな地域



釧路湿原

# 釧路市の家庭教育を取り巻く現状

- ◆ 離婚率、ひとり親世帯の割合の高さ
- ◆ 生活保護受給率が50%超
- ◆ 子育て層の意識の二極化の傾向



## 釧路市家庭教育支援チームを組織

1. グループワークや体験活動を取り入れた、参加型の講座を実施
2. 様々な方法による家庭教育の啓発
3. 訪問型アウトリーチの手法による教育的課題を抱える家庭への個別的なアプローチ(教育的ニーズへのアウトリーチ)

# 「釧路市家庭教育支援チーム」事業実施計画

(家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会(第2回)西館委員発表資料)



### 望ましい生活習慣定着の推進

- ◆啓発資料の作成
  - 望ましい生活習慣啓発リーフレット  
～新入学保護者説明会で活用
  - 生活習慣啓発クリアファイル  
～全学年を対象として作成・活用
  - 早寝早起き朝ごはんカレンダー研究  
～毎日の生活習慣をチェックできるカレンダーを研究・作成
- ◆家庭教育通信の発行・配付  
～家庭教育情報や講座の周知等の通信の作成・発行(年4回程度)
- ◆家庭教育情報のホームページ作成
- ◆各種機会を活用した啓発活動
  - 就学時健診時(11月)
  - 新入学保護者説明会(2月)
  - 家庭教育講座時(随時)
  - 家庭訪問等保護者との接触時(随時)

**= チームの目標 =**  
**全ての家庭の支援をするため、就学前後を通じた効果的な取組を実施する**

### 不登校等教育的課題を抱える家庭への支援

- ◆不登校児童生徒の訪問支援(SSW)  
不登校等教育的課題を抱える家庭の児童生徒の状況改善に向け、家庭訪問等による相談支援を実施
- ◆不登校児童生徒の登校支援  
不登校児童生徒が自宅から学校や適応指導教室等に登校できるよう、送迎や登校手段の支援等寄り添いのサポートを行う
- ◆不登校児童生徒の活動支援(家庭教育推進員・学生サポーター・FS)  
適応指導教室や学校、各施設に通学・通所する児童生徒の活動サポートを実施(遊び相手や話し相手)  
※ 教育大学生やカンセラー有資格者等
- ◆不登校児童生徒家庭の支援(育児支援家庭訪問事業、ファミリーサポート事業)  
適応指導教室や学校、各施設に通学・通所する児童生徒の保護者を含めた、家庭訪問等による直接支援・相談支援を実施(訪問型アウトリーチ支援)

### 学力を支える基盤の整備

- ◆家庭教育講座「ほわっと」の実施  
～いっしょに育てるくしろの子～  
家庭の生活・学習習慣、子どもとの関わり方等について学びを深める機会として、PTA研修会や参観等を活用した講座を実施  
※小中学生の保護者のほか、就学前児童の保護者NPOや企業を対象
- ◆家庭学習啓発資料の研究・開発  
「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「くしろっ子共に育てる10か条」等を活用し、家庭における生活習慣定着を啓発する資料を研究・開発
- ◆親子参加型家庭教育事業の実施  
親子が一緒に料理やものづくり、学習などの活動を通して、コミュニケーションを深めるとともに、望ましい生活習慣や学習習慣について考えるきっかけとなる事業を実施  
※ジュニアリーダー育成事業、放課後子供教室事業等との連携



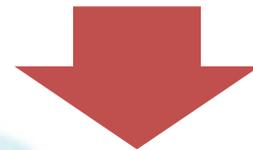
# 釧路市家庭教育支援チームの目ざすもの

**すべての**家庭の子どもたちが  
望ましい**心**と**身体**を育み  
健やかに成長することができる  
環境を整える



家庭教育講座  
各種啓発活動

乳幼児期から継続した幅広い教育支援ができるよう、関係者の連携&効果的な学習機会をつくる



養育に課題を抱える家庭や  
ひとり親・多子世帯等も含め、  
個々の家庭における教育的ニーズに  
応じた教育支援を試みる

教育的ニーズへの  
アウトリーチ



# 子育て家庭を社会的に孤立させないための方策

## 相談窓口の充実 ～様々な相談体制の活用～

- 周知～チームの枠組みを活用した横断的な周知
- つなぎ～相談窓口から適当と思われる者への連絡体制

## 家庭教育講座を活用した仲間づくり ～保護者間の関係構築～

- グループワーク等を活用したコミュニケーション機会の創造
- 講座の内容に相談窓口の情報等を盛り込む

## 民間団体との連携～できることを広げる、多様な視点からのアプローチ～

- 信頼関係の構築(要対協等既存の仕組みを活用、契約、定期的な連絡体制の確立)

## 行政間連携 ～首長部局(特に福祉部局)との連携～

- 事業内容の情報共有と目的の確認
- 継続性とお互いのニーズを調整(コーディネートが必要)

# 家庭教育支援を行う上での課題

## 講座参加者を増やすこと・広げること

- 手法を複数用意 (グループワークやロールプレイ、カフェスタイル等)
- ニーズに即した講座の開催～情報モラル (授業型・集会型) 等

- 浸透には一定の時間が必要
- 既存の事業を見直し、活用

## 課題を抱える家庭へのアプローチ

- SSWを中心とした一件一件個別のアプローチからの支援
- 子供から保護者への支援～子供が変われば保護者も変わる～

- 成果には一定の時間が必要
- 保護者と伴走する専門性

## 役割の明確化、継続性の確立

- 目標の共有、コーディネーターの必要性、チームとしての役割分担
- 様々なスタイルの会議(個別の話し合いの場)が必要

- 個別のケース対応や取組の中から連携が生まれる

## 循環サイクルの確立

- 家庭の状況は環境や能力によって様々であり、その中で育成やグループの形成を図っていくことの困難さ
- 関係を構築し、そのうえで育成を図る～人材育成には知識と経験が必要

- 違う状況からいかに共通点を見出すか

## 予算の確保

- 「家庭教育支援」単独での予算の確保の困難さ
- 成果の見えにくい分野であることを踏まえ、どのように取組を「見せる」か

- 他の関連施策をいかに結び付けていくか

# さいごに

なぜ、「チーム」をつくる必要があるか？

すべての家庭の教育を支援するため

どのような「チーム」を目指すのか？

講演会1回分の予算、年数回の出前講座が「家庭教育支援事業」の全て（取組前）

・1件の家庭を何とかしたい～SSWを配置  
・1人でも多くの人に参加してほしい～講座の改善  
➡ チームの組織

・SSWを中心に教育的課題を抱える家庭に対するアプローチ  
・家庭教育推進員を中心に講座・啓発の充実

**1件の家庭と10年後の未来を見据えた取組を!!**

・チームとして目的を共有し、各チーム員が関わる事業を見直し、再構築することにより、より一層の推進を図る

・まだまだ途上ではあるが、取組が少しずつ浸透・前進している実感